新たな気持ちで－令和４年度当初に際して－

昨年度に引き続き本校校長を務めます　齋藤幸之介でございます。１年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、御陰様をもちまして、入学式並びに始業式を行うことができました。御子様の御入学・御進級、誠におめでとうございます。開校２９年を迎える本校では、本年度４５３名の子供たちが学校生活を始めることとなります。子供たちが充実した教育活動を行えるよう、本校教職員一同できうる限りの努力をし、御子様を責任をもってお預かりをしてまいります。

新型コロナウイルス感染症によって学校教育に多大なる影響を与えるようになってから２年以上の月日が過ぎました。昨年度は、臨時休校、学年閉鎖、学級閉鎖を行うことにもなり、感染による影響の大きさを感じないわけにはまいりませんでした。しかし、一方で、活動の規模の縮小せざるを得ない場面等もございましたが、いくつかの行事等については実施することができました。皆様の御理解と御協力に改めて感謝をする次第です。本年度も「できることはやる」と「できないことはできない」を念頭に置き、教育活動を推進していく所存です。昨年度も申し上げましたが、「できることを日々淡々と行っていく」ことを忘れないようにしていきたいと考えております。皆様には、これからも感染症対策を始めとして保護者並びに御家族の皆様には御協力を賜るかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本校は、本年度より「コミュニティ・スクール」となります。すでに御存知の方も多々いらっしゃると思いますが、これは「保護者や地域の方々が、学校と一緒に連携・協働しながら子供たちの学びと成長を支える仕組み（多摩市教育委員会）」であるとされます。「保護者・地域・学校の連携」についてはすでに多くの場面で言われていることであり、昨年度の本校の学校経営計画でも示しているところではあります。私共は、このことを踏まえながら、保護者並びに地域の皆様との関連を一層緊密にしていただきながら学校教育のさらなる充実を図るとともに、学校からもできることを提供していく、と新たに考えているところです。

その上で、何よりも、子供たちが学校を「楽しい」と感じられるようにすることが私共の最も大きな責務、としています。何よりも、多くの子供たちが集い、そして相互に関わりながら生活する、という学校ならではの特色を生かせるようにしてまいります。何よりも「いじめを許さない」という強い信念をもち、子供たちが相互によさを認め、また相手の立場を理解できるように努力してまいります。また、子供たちの教育的ニーズに応えるための支援を必要に応じて行ってまいります。その際には保護者の方々には御相談を申し上げますが、御理解をくださいますようお願い申し上げます。

「楽しい」学校では、「生きる力」、具体的には「かしこく（確かな学力）」、「やさしく（豊かな人間性）」、「たくましく（健康・体力）」を教育目標に掲げて教育活動を行っていきます。

確かな学力、豊かな人間性、健康・体力は、相互に関連しながら子供たちが将来生きていくために必要な資質・能力として養われていきます。本年度は、特に確かな学力に焦点を当てながら、これらをバランスよく育成していきたいと考えています。

このことは、多摩市が目指す ESD（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）、具体的には「これからの社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現するための教育」と合致することになります。また、これは、国際連合が掲げている SDGｓ（持続可能な開発目標）にもつながっています。このことも強く意識しながら教育活動を推進していきます。

今後、例えばタブレット端末の活用を始めとする ICT の推進など、皆様には御協力を賜ることが多々ございますが、御理解と御協力を賜りたく存じます。

以上、年度当初の御挨拶とさせていただきます。

令和４年４月６日

多摩市立諏訪小学校
校 長　齋藤 幸之介